

『賃金とは何か』の著者 濱口桂一郎さんが語る

「なぜ日本の賃金は上がらないのか」

-日本の賃金の決め方・上げ方・支え方の歴史から探る-

日時 2025年5月31日(土)
14:45~16:55(14:20~受付)

会場 京都テルサ東館2階第2・3セミナー室
(地下鉄九条駅下車徒歩5分 TEL075-692-3400)

申込 お問合せ 認定NPO法人あったかサポート
TEL:075-632-8962 FAX:075-632-8963
E-mail: attaka-support@r6.dion.ne.jp

参加費
無料



なぜ日本の賃金は過去30年近く上がらなかったのか？毎年の春闘結果では
政労使とも2%程度賃上げしてきたのではないのか？それは、その賃上げが
『定昇込み』だからだ。ごく最近までの約四半世紀間、日本の賃上げは定昇
堅持の代わりにベアゼロだった。

定期昇給とは何か？今から70年以上前に関経協が述べているとおり、労働者
個人の賃金は上がっても、内転により全体の人件費は増えない仕組みだ。だから、
定昇のある正社員は自分の賃金が上がったと感じながら、日本全体では全く上がらなかった。

定期昇給が生み出す日本的な年功賃金制に対し、1950-60年代の政府や経営側は職務給への
移行を唱えていたが、1970年代以降職能給というかたちで認めるようになった。それが行き
詰まる中で、今再び職務給(ジョブ型賃金)が注目されてきている。

社会全体で賃金を底支えする最低賃金制は長らく非正規専用とみられてきたが、21世紀に
なり格差社会が問題となる中で国政課題となり、20年間政府主導で最賃の引上げが続いている。
(濱口桂一郎)

経歴

- ・1958年生れ・1983年労働省入省・1995年欧州連合日本政府代表部一等書記官
- ・2003年東京大学大学院法学政治学研究科附属比較法政国際センター客員教授
- ・2005年政策研究大学院大学教授・2008年労働政策研究・研修機構労使関係部門統括研究員
- ・2017年労働政策研究・研修機構研究所長

主著

『新しい労働社会』岩波新書(2009年)『日本の雇用と労働法』日経文庫(2011年)
『若者と労働』中公新書ラクレ(2013年)『日本の雇用と中高年』ちくま新書(2014年)
『働く女子の運命』文春新書(2015年)『働き方改革の世界史』ちくま新書(2020年)
『ジョブ型雇用社会とは何か』岩波新書(2021年)『家政婦の歴史』文春新書(2023年)
『賃金とは何か』朝日新書(2024年)

